

松江市地域公共交通計画 2024-2028
令和 6 年度数値目標及び施策実施状況のモニタリングについて

1 計画に定める評価指標とモニタリングの時期

「松江市地域公共交通計画 2024-2028」では計画の進行管理・評価・改善を図っていくために、市民会議で定期的なモニタリングを実施することとしています。

計画の基本的な方針に即した目標とモニタリングの時期は以下のとおりです。(今年度モニタリングを行う項目は赤字)

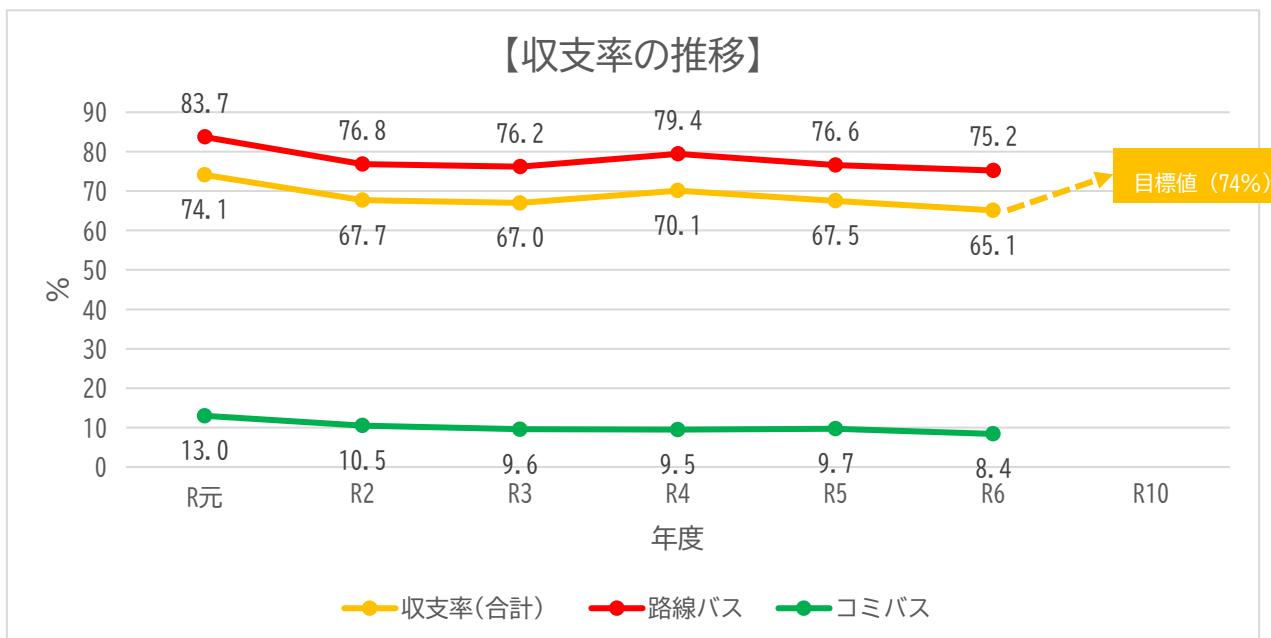
表：目標に対する評価指標とモニタリングの時期

| 目 標 | 評価指標 | 現状値 (基準年) | R6 実績値 | R10 目標値 | モニタリ ング時期 |
|----------------------------------------|-------------------------------------------------------|---------------------|-------------|-------------|--------------|
| 目標1 公共交通の持続性を向上する | ①公共交通の収支率 ※ (路線バス（一畑バス・松江市交通局）・コミュニティバス・AI デマンドバス) | 67.0% (R3) | 65.1% | 74%以上 | 毎年度 |
| | ②公共交通に対する市民一人あたりの公的資金投入額 ※ (同上) | 4,237 円／人 (R4) | 3,959 円／人 | 4,000 円／人以内 | 毎年度 |
| 目標2 市民の日常生活を支える公共交通サービスを確保する | ①公共交通の利用者数 ※ (鉄道・路線バス・コミュニティバス・AI デマンドバス) | 6,589 千人 (R4) | 6,809 千人 | 7,868 千人 | 毎年度 |
| | ②市民の路線バスに対する総合的な満足度 (市民アンケート) | 70% (R5) | | 70%以上 | 最終年度 |
| 目標3 公共交通を利用してお出かけしたくなる環境をつくる | ①公共交通による外出頻度（1年間にバスを一度も利用しなかった人の割合） (市民アンケート) | 70% (R5) | | 49%以下 | 最終年度 |
| | ②主要交通結節点と主な観光資源の最寄りのバス停の乗降客数 | 約 4,000 人／日 (R4) | 約 4,400 人／日 | 4,800 人／日以上 | 毎年度 |
| 目標4 市民会議を中心として、公共交通の利用促進と計画の進行管理を行う | ①市民会議が主体となった利用促進・啓発活動の実施回数 | 1 件 (R4) | 5 件 | 7 件以上 | 毎年度 |
| | ②市民会議の開催回数 | 1 回 (R4) | 3 回 | 3 回以上 | 毎年度 |

2 目標別の実施状況

目標1 公共交通の持続性を向上する

| | 現状値 | R6 実績値 | R10 目標値 | 備考、データ取得方法 |
|----------------------------------|-----------------------|---------------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| ①公共交通の収支率 | 67.0% (R3) | 65.1% | 74% | ・路線バスは、松江市交通局と一畠バス = 経常収入/経常費用 ・コミュニティバス・AI デマンドバス = 運賃収入/事業費計 |
| ②公共交通に対する市 民一人あたりの公的 資金投入額 | 4,237 円 ／人 (R4) | 3,959 円 ／人 | 4,000 円 ／人以内 | (路線バスの運行に係る市補助額+コミュニ ティバス・AI デマンドバス運行に係る市支 出額)／各年 9 月 30 日現在の住民基本台帳人口 |



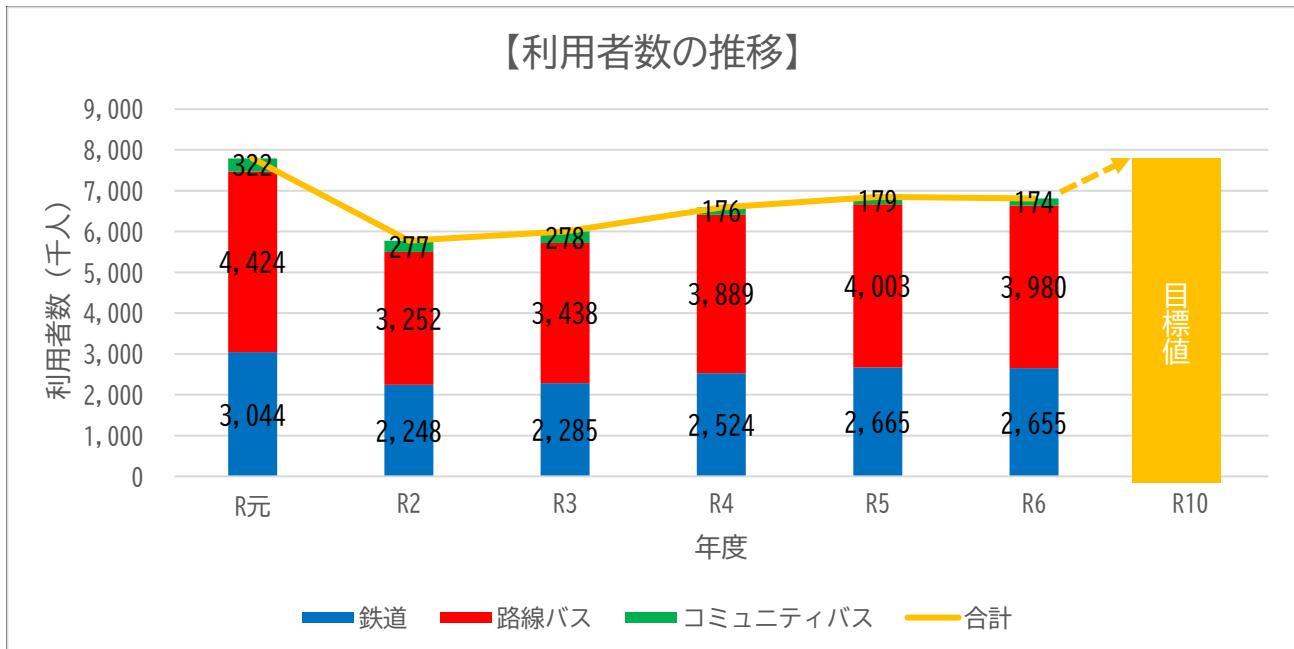
- ・全体として低下傾向にある。
- ・路線バスは、コロナ禍以降、人件費や燃料費・物価の高騰により収支率が低下。コミバスは、新たにAI デマンドバスを導入したことにより、全体の収支率が低下した。

主たる取組・実績

- ・令和6年4月：一畠バス・松江市交通局の金額式共通IC定期券を導入（IC利用率：令和5年度約7割→令和6年度約8割）【交通事業者】
- ・令和6年9月：島根スサノオマジック、JR西日本、一畠電車、一畠バス、松江市交通局、松江市の6者による連携協定を締結。JR西日本の移動サービスアプリ「WESTER」を活用したスタンプラリーやスサノオマジック選手による車内アナウンス、バス停へスサノオマジック応援ラッピング（北公園・総合体育館）等を実施（バス・電車を利用した来場：23-24シーズン 6.6%→24-25シーズン 9.6%）【交通事業者、松江市】
- ・令和6年12月：一畠バスと松江市交通局で連携協定締結。共同経営計画の策定に着手【交通事業者】
- ・運転士確保に向けた支援制度の拡充を国・県に要望【松江市】

目標2 市民の日常生活を支える公共交通サービスを確保する

| | 現状値 | R6 実績値 | R10 目標値 | 備考、データ取得方法 |
|-------------------------|-----------------|-----------|---------------|----------------------------------------|
| ①公共交通の利用者数 | 6,589千人 (R4) | 6,809千人 | 7,868千人 以上 | 鉄道・路線バス・コミュニティバス・AI デマンドバスの利用者数の合算値 |
| ②市民の路線バスに対する 総合的な満足度 | | | | 令和10年に市民アンケート調査を実施し 把握 |



- 利用促進の取組により、令和4年度以降、利用者数は横這いとなっている。
- 路線バスの利用者数が伸び悩む背景の一つとして、運転士の減少や便数の減少が挙げられる。
(路線バス運転士数 R元年度：163名、R6年度：144名)

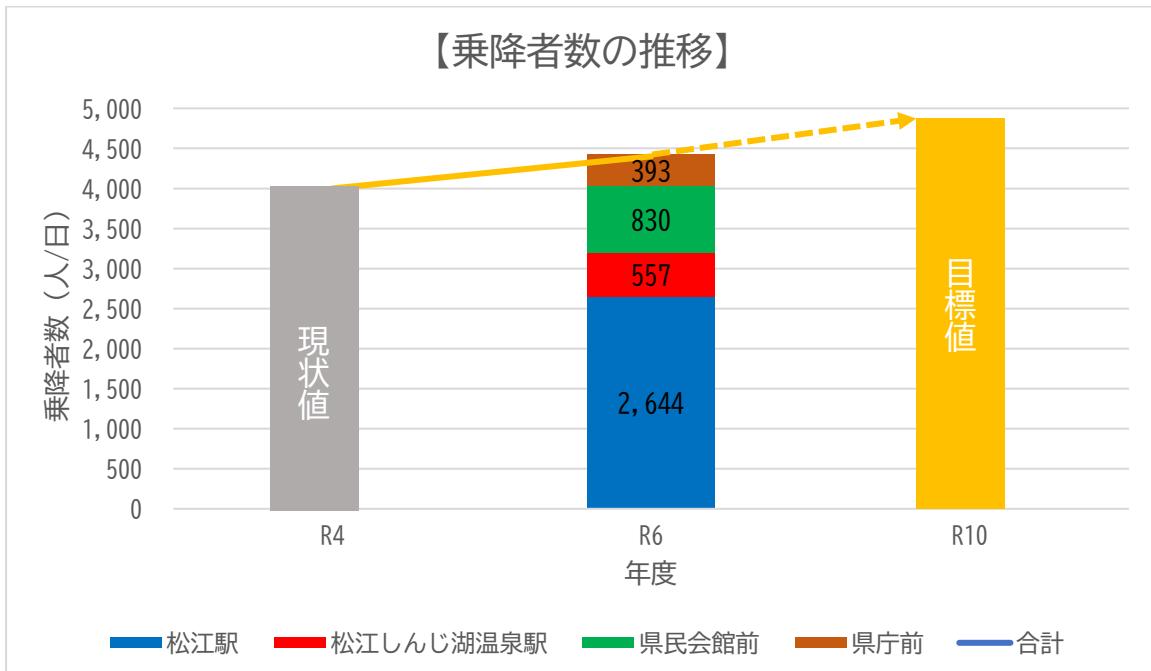
主たる取組・実績

- 一畠バスは、令和6年10月1日 3路線廃止、1路線系統変更及び土日祝ダイヤにおいてダイヤを減便。松江市交通局は令和6年10月に需要に応じたダイヤ改正を実施【交通事業者】。
コミュニティバス路線（御津線、大東線）の新設、市営バスによる松江しんじ湖温泉駅と竹矢を結ぶダイヤの新設と市営バス・イエローバスのダイヤ改正により、路線廃止に対応【松江市・雲南市・宍道市・交通事業者】
- 令和6年4月：大野・秋鹿地区、令和6年10月：宍道地区、八雲・忌部地区で新たにAIデマンドバスの運行を開始。（八束、大野・秋鹿、宍道、八雲・忌部の4地区で運行）【松江市】
- 令和7年3月：AIデマンドバスの導入指針策定（松江工業高等専門学校三谷准教授の協力）【松江市】
- 令和7年4月：美保関コミュニティバスでスクールバスとの混乗運行を実施【松江市】
- 令和6年10月：ソフトバンク株式会社と物流・人流の発展および持続可能な基盤構築の推進を目的に連携協定を締結。運転士不足対策の一つとして自動運転バスの導入検討に着手【松江市・交通事業者】

- 令和 6 年 10 月：タクシー運転士の人材確保にかかる費用を補助する「タクシーパートナーリンク事業」を創設（支援実績：6 件）【松江市】
- 令和 7 年 2 月：日本版ライドシェア実証事業（令和 7 年 2 月 18 日～3 月 31 日）を実施。タクシー事業者 2 社が参画。ライドシェアドライバーの採用に係る費用を助成し、5 名の採用につながる。【交通事業者・松江市】
- 令和 7 年 3 月：市民会議で「目指すべき公共交通の姿 松江市 16 地域別エリアカタログ」を策定

目標3 公共交通を利用して出かけたくなる環境をつくる

| | 現状値 | R6 実績値 | R10 目標値 | 備考、データ取得方法 |
|--------------------------------------|------------------------|----------------|---------------|-------------------------------------------------------------------------|
| ①公共交通による外出頻度（1 年間にバスを一度も利用しなかった人の割合） | | | | 令和 10 年に市民アンケート調査を実施し把握 |
| ②主要交通結節点と主要観光資源の最寄りのバス停の乗降者数 | 約 4,000 人／日 (R4) | 約 4,400 人／日 | 4,800 人 ／日 | 交通系 IC カードの利用実績データをもとに集計 JR 松江駅バス停、松江しんじ湖温泉駅バス停、県民会館前バス停、国宝松江城県庁前バス停 |



主たる取組・実績

- JR 西日本が提供する「tabiwa by WESTER」や、「JALMaaS」にて一畠バス、松江市交通局、一畠電車が 2 日間乗り放題となる「松江・出雲 旅 PASS 2Days」を販売【交通事業者】
- 令和 6 年 9 月：「第 14 回バスまつり」の開催に合わせ、路線バスと一畠電車、コミュニティバスの

小学生以下無料乗車イベントを実施（令和6年9月16日～11月3日の土日祝日）【交通事業者】

- 令和7年2月：市民会議の部会として「走行環境改善部会」を開催。路線バスの走行環境改善を目的に、主要バス停の機能向上などについて、道路管理者、警察と協議を実施【交通事業者、松江市】
- 乗継拠点の整備について、路線バスWGにて検討中【松江市】

目標4 市民会議を中心として、公共交通の利用促進と計画の進行管理を行う

| | 現状値 | R6 実績値 | R10 目標値 | 備考、データ取得方法 |
|----------------------------|------------|-----------|------------|--------------------------|
| ①市民会議が主体となった利用促進・啓発活動の実施回数 | 1件 (R4) | 5件 | 7件 | 市民会議事務局において取組件数・内容をとりまとめ |
| ②市民会議の開催回数 | 1回 | 3回 | 3回以上 | 市民会議事務局においてとりまとめ |

主たる取組・実績

- 令和6年5月：有識者、交通事業者、利用者・地域代表、担い手（運転士）、行政の各分野が公共交通全体のあり方を検討する、「公共交通で暮らしやすい未来を実現するプロジェクトチーム（PT）」を市民会議の部会として設置。さらに分野別に4つのワーキングを設置。（PT5回、WG23回）
- 令和6年11月：PTに「自動運転WG」を設置。将来的な運転士不足対策、おでかけ需要の創出、まちの魅力向上を目的とし、自動運転バスの導入について検討を着手【市民会議・松江市】
- 「新たなモビリティWG」では、うぐいす台団地・法吉団地・比津が丘団地でグリーンスローモビリティを運行する社会福祉法人みづうみとの勉強会を5回実施し、他地区での横展開を検討
- 令和6年6月：公共交通は環境にやさしいことを周知するため、「まつえ環境市民会議」と合同で「クールチョイス街頭啓発活動」を実施【市民会議】
- 島根スサノオマジック、JR西日本、一畑電車、一畑バス、松江市交通局、松江市の6者による連携協定を締結。JR西日本の移動サービスアプリ「WESTER」を活用したスタンプラリーやスサノオマジック選手による車内アナウンス、バス停へスサノオマジック応援ラッピング（北公園・総合体育館）等を実施（バス・電車を利用した来場：23-24シーズン 6.6%→24-25シーズン 9.6%）【再掲】
- 令和6年9-10月：市内の渋滞緩和と公共交通のピーク分散を目的に、島根県幹線道路協議会 交通渋滞対策部会が実施する「松江Good Morning Project」と連携した時差出勤の啓発活動と絡めた公共交通の利用促進を実施【市民会議】
- 令和6年11月：バス、タクシー運転士への就職のきっかけづくりとして、令和6年11月に「バス運転体験会＆バス・タクシー就業フェア」を出雲市と合同で初開催（イベントを通じた松江・出雲の採用人数：5名）【市民会議・交通事業者】
- 交通業界の魅力や旬の施策を、TikTok、Instagramにて発信（「松江さんちの交通大作戦」）【市民会議・交通事業者】

まとめ・今後の方向性

- 令和6年度は路線バスの減便や、路線の廃止といった状況にあっても、交通事業者をはじめ、本市民会議において、公共交通の利用促進に係る取組を着実に実施したことで、「2-①公共交通の利用者数」は維持ができた。一方で、運転士不足に加え、人件費や燃料費・物価の高騰により「1-①公共交通の収支率」が低下傾向にあるなど、交通事業者にとって依然として厳しい状況が続いている。
- 継続して公共交通利用促進策を実行するとともに、運転士等の人材確保、路線バスや鉄道等の幹線とコミバス等の支線、個別ニーズに応えるタクシーなど、それぞれの特性を生かした公共交通ネットワークの再構築を進める。
- 今後、「目指すべき公共交通の姿 松江市16地域別エリアカタログ」をベースに、地域公共交通計画の実施計画として「松江市地域公共交通利便増進実施計画」を策定し、一畠バス・松江市交通局による重複路線での等間隔ダイヤ導入、コミュニティバスの延伸、運賃改定、交通結節点や乗継環境の整備・充実化を通じて、公共交通を利用しやすい環境づくりを進めるとともに、路線バスについて、一畠バスと松江市交通局が共同で「(仮称) 松江地区乗合バス事業共同運行計画」を策定し、運転士及び車両の効率化などを図り、安定的で持続可能な運行を実現する。

※ 松江市地域公共交通計画に記載の評価指標の修正について

(現在)

目標1 公共交通の持続性を向上する

| 評価指標 | 現状値 | R10 年度 |
|--------------------------|-----------------------------|-----------------|
| ①公共交通の収支率 | <u>76%</u> (R3 年度) | <u>78%以上</u> |
| ②公共交通に対する市民一人あたりの公的資金投入額 | <u>3,947 円／人</u> (R4 年度) | 4,000 円／人 以内 |

目標2 市民の日常生活を支える公共交通サービスを確保する

| 評価指標 | 現状値 | R10 年度 |
|------------|----------------------------|----------------|
| ①公共交通の利用者数 | <u>6,688 千人</u> (R4 年度) | 7,868 千人 以上 |

(修正後)

目標1 公共交通の持続性を向上する

| 評価指標 | 現状値 | R10 年度 | 修正理由 |
|--------------------------|-----------------------------|-----------------|-------------------------------|
| ①公共交通の収支率 | <u>67%</u> (R3 年度) | <u>74%以上</u> | 収支率の算定期間をバス会計年度から事業年度に変更したため。 |
| ②公共交通に対する市民一人あたりの公的資金投入額 | <u>4,237 円／人</u> (R4 年度) | 4,000 円／人 以内 | 計画策定時の集計に誤りがあったため。 |

目標2 市民の日常生活を支える公共交通サービスを確保する

| 評価指標 | 現状値 | R10 年度 | 修正理由 |
|------------|----------------------------|----------------|--------------------|
| ①公共交通の利用者数 | <u>6,589 千人</u> (R4 年度) | 7,868 千人 以上 | 計画策定時の集計に誤りがあったため。 |

上記「評価指標」の修正については、現在策定中の「松江市地域公共交通利便増進実施計画」に伴う「松江市地域公共交通計画」の改定に含め、対応するもの。